

緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）による被災地支援

四国地方整備局 総括防災調整官 宮本 正司

1. はじめに

緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE:Technical Emergency Control Force)は、大規模自然災害が発生又は発生するおそれがある場合に、被災地方公共団体等からの要請に基づき迅速に出動し、被災状況の迅速な把握、被害の発生・拡大の防止、被災地の早期復旧その他災害応急対策に対する技術的な支援を行うことを目的として、平成20年度に創設されました。

東日本大震災(平成23年3月11日14:46発生)では、国土交通大臣の指示の下、震災発生の翌日には各地方整備局から約400名のTEC-FORCE隊員を現地に派遣。最大500名を超える隊員が、余震が続き、雪の積もる中で速やかな被災状況の調査、早期の被災地への物資輸送を可能にするための道路啓開、排水ポンプ車による排水活動、市町村リエゾンによる自治体支援等、13都道県、97市町村で延べ18,115人・日の支援活動を実施しました。

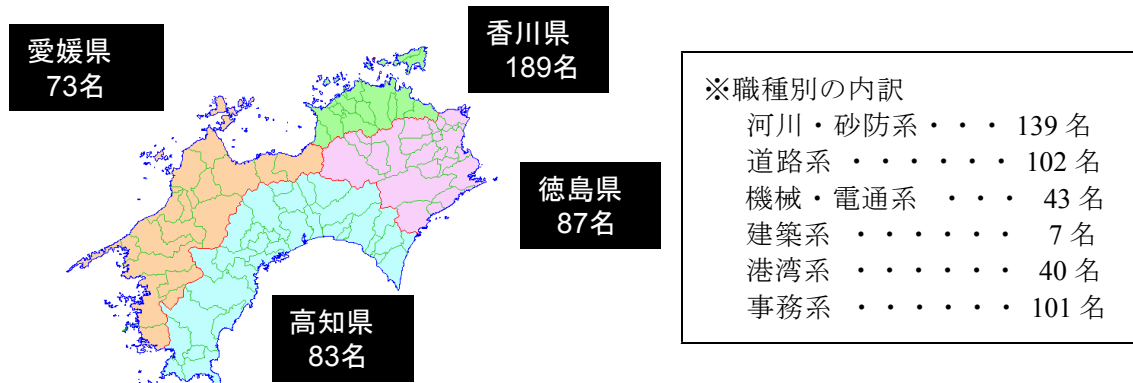
このTEC-FORCEの支援活動が高く評価された反面、東日本大震災における問題点も浮き彫りとなったことから、今後発生が想定される首都直下地震や南海トラフ巨大地震等の大規模災害時において、全国からのTEC-FORCEの迅速な派遣や、派遣隊の組織を超えた被災地での統合的な運用などが可能となるよう「緊急災害対策派遣隊の設置に関する訓令」(平成24年5月29日)が定められ、体制強化が取り組まれています。

2. TEC-FORCEの体制強化

被災地方公共団体等が行う災害応急対策に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に実施することを目的としたTEC-FORCEは、本省、国土技術政策総合研究所、国土地理院、地方支分部局、気象庁に設置され、先遣班、現地支援班、情報通信班、高度技術指導班、被災状況調査班、応急対策班、リエゾン班(被災自治体支援班)、災害記録班(広報班)、輸送支援班、地理情報支援班、気象・地象情報提供班より構成されます。

体制強化・拡充としては、全国の地方整備局を主体に東日本大震災前(平成22年10月1日時点)約2,600人体制から平成25年11月1日現在5,463人体制に増員するとともに、被災状況調査、二次災害の防止等に必要な各種装備品等の拡充を図っているところです。

現時点の四国地方整備局のTEC-FORCE隊は432名であり、各県別及び職種別の登録数は下記の通りです。



TEC-FORCE 隊員の県別及び職種別登録数（平成25年11月1日現在）

3. 今年の四国地方整備局TEC-FORCE活動

今年4月13日(土)に兵庫県淡路島付近を震源とした地震が発生、四国管内(香川、徳島県)に震度5弱が観測されたことによる災害対策本部警戒体制の発令をかわきりに、風水害等の対応として11月末までに災害対策本部(警戒体制)を4回、支援対策本部を4回、支援連絡室を1回設置して、災害及び支援対応を実施しました。

幸いにも四国地域においては、大きな被害が発生しませんでした。梅雨前線及び台風第18号、26号の影響により中国地方、近畿地方及び伊豆大島で甚大な被害が発生しました。

これらの災害に対して、中国地方整備局及び近畿地方整備局災害対策本部長の派遣要請を受け、被災した河川や道路や砂防施設などの被害規模、応急復旧方法の技術的支援等、被災地の1日も早い復旧を目指して、山口県・島根県と京都府へTEC-FORCE 隊を派遣しました。



四国地方整備局を出発するTEC-FORCE隊員
(平成25年7月29日)

【中国地方の豪雨対応】

平成25年7月22日から8月1日にかけて、日本海から東北地方付近にのびる梅雨前線の影響で、九州から北海道にかけて局地的に非常に激しい雨が降り、この期間内の1時間降水量では、山口県山口市山口で143.0ミ、同県萩市須佐で138.5ミ、島根県鹿足郡津和野町津和野で91.5ミと観測史上1位を更新したことから気象庁は、この豪雨に対して「山口県と島根県では、これまでに経験したことのないような大雨となっているところがあります。この地域の方は最大級の警戒をしてください。」との発表し、今年8月30日から運用が始まる『大雨特別警報』に相当する情報でした。

更に追い打ちを懸けるように、8月23日から25日にかけて、中国地方西部と近畿地方中部を中心に激しい雷雨となり、特に、島根県西部で猛烈な雨が降り、島根県江津市桜江での総降水量が474.0ミに達するなど記録的な大雨となりました。

この2回の豪雨に対するTEC-FORCE 隊の支援活動は以下の通りです。

◆山口県への支援活動(7月29日～8月7日)◆

山口県庁、萩市むつみ総合事務所及び須佐総合事務へTEC-FORCE 隊として、司令班[1名]、道路班[10名]、河川班[8名]、砂防班[5名]、ロジ班[2名]、広報班[2名]の計28名(214人・日)を派遣しました。同市におけるTEC-FORCE 活動場所を図-1に活動状況を写真-1、写真-2に示します。



図-1 山口県萩市におけるTEC-FORCE活動場所



写真-1 TEC-FORCEの被害報告書を萩市へ提出



【道路班 市道中津坂線の被災調査】



【河川班 阿武川水系支川大迫川の被災調査】



【砂防班 奥畑堰堤の被災調査】

写真-2 山口県萩市におけるTEC-FORCEの活動状況

◆島根県への支援活動（8月25日～9月7日）◆

島根県邑智郡邑南町役場へ TEC-FORCE 隊として、司令班[2名]、道路班[9名]、河川班[8名]、嘖班[2名]、広報班[2名]の計23名(116人・日)を派遣しました。同町における TEC-FORCE 活動場所を図-2 に活動状況は写真-3、写真-4 に示します。



図-2 島根県邑智郡邑南町におけるTEC-FORCE活動場所



写真-3 TEC-FORCEの被害報告書を
邑南町へ提出



【河川班の被災調査】



【道路班の被災調査】

写真-4 島根県邑智郡邑南町におけるTEC-FORCEの活動状況

【台風第18号による近畿地方の風水害対応】

9月15日から16日にかけて日本列島に上陸した台風第18号は、四国地方から北海道地方にかけて、広い範囲に大雨や突風による被害をもたらしました。特に、京都府北部の由良川が氾濫し、福知山市を中心に浸水被害が発生。この台風に対し気象庁は、48時間雨量が「50年に1度」のレベルを上回ったとして、京都府、滋賀県、福井県の3府県に対して、本年8月30日の運用開始以降、初めて「大雨特別警報」を発表しました。

この風水害に対する TEC-FORCE 隊の支援活動は以下の通りです。

◆京都府への支援活動（9月16日～9月20日）◆

京都府舞鶴市、福知山市へ TEC-FORCE 隊として、司令班[1名]、道路班[8名]、河川班[9名]、砂防班[4名]、嘖班[2名]、応急対策班[2名]、広報班[2名]の計28名(112人・日)及び排水ポンプ車5台を派遣しました。同府における TEC-FORCE 活動場所を図-3 に活動状況を写真-5、写真-6 に示します。



図-3 舞鶴市におけるTEC-FORCE活動場所



写真-5 TEC-FORCEの被害報告書を舞鶴市へ提出



待機する排水ポンプ車



被災状況調査（境谷橋）



道路の被災状況調査（白滝地区）

写真-6 舞鶴市・福知山市におけるTEC-FORCEの活動状況

4. おわりに

被災地方公共団体等での TEC-FORCE 支援活動は、高い評価を受けており、その期待は徐々に高まっています。今後も地球温暖化等に伴う災害リスクの増大や大規模地震の可能性も踏まえ、国土交通省の責務を今まで以上に果たせるよう総力をあげて被災地の早期復旧のための応急対策及び技術支援などを実施していきたいと考えています。

最後に、今回、被災地の1日も早い復旧に向け、悪天候の中、被災状況調査及び応急復旧方法等の技術的支援等を実施いただいた隊員の皆様と隊員を送り出させていただきました各々の職場の皆様には本誌をお借りしてお礼申し上げます。